

徳久町老人会とのタウンミーティング

日 時 令和5年2月1日（水）10時45分～11時30分

会 場 徳久町公民館

参加人数 31人

1) 開会

2) 市長 市政報告

○はじめに

・ここ数日、大雪が降って低温に見舞われ、能登地方では大きな断水が発生しています。能登地方では空き家が大変多くなってきていて、水道管が破裂してしまうと誰もケアする方がおらず、大きな断水の原因となっています。

・現在、能美市では大きな断水はないが、水道水を使って雪を解かしたり、あるいは夜、管が破裂しないように水を流したまま朝を迎えるという方が数軒いらっしゃると、水位が減ってきて、断水をする可能性も出てきます。節水にもご協力をいただければと思います。

○インクルーシブのみ

・今日は「インクルーシブのみ」という題でお話をさせていただきます。インクルーシブというのは、誰も仲間外れにしない、地域共生社会という意味です。能美市に住んでいる健康な方も障がいをお持ちの方もお子さんも高齢者も、また外国人も、全ての皆様方が安全、安心、快適に暮らしていくことを目指そうというのがこのインクルーシブのみという事であります。

・泉台町のクアハウスN9横に、インクルーシブパークという公園があります。障がいをお持ちの方でも滑れる滑り台や、遊べるブランコを設置した公園を昨年オープンさせていただきました。大変マスコミ等々から関心をいただき大きく報道されました。

○2022年を振り返って

- ・ 8月4日には大雨が降りました。これは後ほど詳しく触れさせていただきます。
- ・ 3年ぶりをキーワードに、いろんなイベントが復活いたしました。九谷茶碗まつりには大変多くの方々がお越しになられましたし、辰口じょんからまつりも3年ぶりに開催しました。当時は感染症の影響から迷いましたけれども、本当にたくさんの方がご来場いただきました。
- ・ 災害があったということも影響してか、義援金寄附、様々な連携協定が本当に多い年でもありました。
- ・ 新年に新聞社から今年の意気込みを示す漢字1文字を書いてくれということで、千載一遇の機会に向けていろんなことを準備するということから、「備」という字を選ばせていただきました。

○8月4日の大雨について

- ・ 当日は、4時18分に大雨警報が発表されて、5時8分に土砂災害警戒情報が発表されました。6時半に災害警戒体制会議を行って、鍋谷と寺畠に避難指示を発表しました。当日は午前中で雨が収まるだろうと言われていたが、午後からもずっと強い雨が降りました。
- ・ 下水道に雨水がどんどん入って行って、夕方になって下水道が使えないという状態が起き、市民の皆様に炊事やお風呂の使用を少し控えてほしいという案内もしました。
- ・ 翌日になり大雨警報が解除されて、避難指示も解除したという状況でした。
- ・ 当日は過去経験したことのない大雨が降りました。2018年の7月にも避難指示を出したが、このときは大雨警報が5時51分、5時間後に土砂災害警戒情報を発表しています。タイムラグは5時間です。ところが8月4日は50分しかありませんでした。いかに急に大量の雨が降ったかがこの時間差で分かっていただけたと思います。
- ・ 8月4日の4時から5時までの間に時間86ミリの雨が降りました。80ミリ以上の雨というのは、猛烈な雨といいまして、息が苦しくなるような圧迫感があり、恐怖を感じる。こんな雨が能美市内に降って、大きな被害が出ました。
- ・ セツ滝、遣水観音、蟹淵で土石流が発生しました。遣水観音は昨年12月23日に土砂を撤去して、今は使えるようになっていますが、蟹淵はまだ全く手つかずで、今どうやってやっていこうかということを悩んでいます。

・冠水によってどれだけの被害があったかといいますと、床上、床下浸水が約120件、それから土砂が流入した農地が12ヘクタール、水が入ったのが20ヘクタール、イノシシの柵が1キロにわたって壊れました。

・鍋谷川にあった15か所の頭首工が全部壊れました。農地に水を入れなくてはならないということから、しばらくポンプを使って川から水を上げて農地に水を供給していました。

・過去経験したことのない大雨ということで、議会でもすぐに予算を取っていただいたり、我々も経験したことのないいろんな対応を求められたんです。これまで能美市で床上・床下浸水したというのは過去そんなに経験がなかった。床上・床下浸水した市民から、自宅に入った水をポンプで出したい、ポンプを貸してくれと言われたんですが、ポンプは1台も持っていなかった。消毒用の機械も1台も持っていなかった。市内の業者さんに、かと聞いてもほとんど持っていないということで、大雨が降ったときに、こんなこともあんなこともしなくてはならないということを改めて学びました。

・ある地域では水が増えてきていて避難所までなかなか行きにくことから、公民館を一時的に避難所にしていただいたり、市民の皆様方が協力して土のうをつくってもらったりと協力をいただいたことから、我々市役所だけでできることの限界も感じていまして、市民の皆様方とどうやって皆さんの生命や財産を守っていくかということ、改めていろんな策を練り直さなくてはならないなと痛感しております。

○市政の方針と施策

・今の市政の方針と施策というのは、7つの柱の施策と、新型コロナウイルス感染症対策等が全部、移住定住の促進につながるという方針でやっています。自治体の勢いを示す数値といいますか指標は人口増だと思っています。

・人口が増えるというのは2つ要素があります。自然増と社会増です。自然増というのは、亡くなる人よりも生まれてくる赤ちゃんが多いと自然増です。社会増というのは、引っ越していったら人よりも引っ越して来てくれる人が多いのが社会増です。つまり、自然増と社会増をどうやってやっていくかということが移住定住の促進につながるわけでありませう。

・いかに市民の皆様方に能美市というところを好きになってもらうか、誇りに思ってもらおうかということもすごく大事にしていて、ふるさと愛をどうやって醸成するかということも一生懸命やっています。

・今年の漢字、「導」という字にしました。デジタルという漢字を探したんですけどもなく、それでこの字を選んで、横に片仮名で「デジタル」とつけました。

・国が地方の自治体はデジタル田園都市を目指しなさいということを言っていて、まさに能美市もデジタル田園都市を目指してデジタルの力を使ってやっつけようとしています。例えば、人口の社会増のために子育て、住環境の充実をしていきたいと思います。自然増をさせるために健康寿命や子宝を支援していきたいと思います。自然災害や事故も少ないようにしていこうとしています。

・能美市内には約1,300人の外国人がお住まいです。石川県に19市町ありますけれども、人口当たりの外国人が住んでいらっしゃる比率は能美市がナンバーワンなんです。一番多いのがベトナム人、次が中国人なんです。北陸先端科学技術大学院大学の留学生、それから地元の会社に勤めていらっしゃる方ということです。市役所では、タブレットを使って通訳をしながら手続を進めています。

・能美市に11の小中学校があるが、築50年以上が全体の35%を占めていて、どう建て替えていくかが大きな課題になっています。水道管や道路や看板、これも大変古くて寺井駅と書いてある看板があったり、もうない施設がまだ掲載されている看板もありこれをどう整備していくかも課題になっています。

・いろんなデジタル技術を取り入れているんですけども、いろんなビデオもつくって、ホームページで流したりテレビで流して、能美市のことを宣伝しています。

・GIGAスクール構想といいまして、今、小中学生全員タブレットを持って授業をしています。昔は、チョークを持って授業をやっていましたけれども、今は電子黒板といいまして、電子のペンを持って授業をやっています。

・感染症の影響なんかでなかなか図書館に行きにくくなった。あるいは、図書館は朝の9時から夕方5時ぐらいまでしかやっていなくて、仕事で遅くなるような人たちが本を借りづらいということで、パソコンから電子図書館で本を借りられるようにしました。

・町会長・町内会長さん、民生委員、児童委員の皆様方にもタブレットを持ってもらっていろんな情報を共有しています。

・防災関係にもいろんなデジタルの技術を取り入れています。例えばドローンですが、遠赤外線のカメラがついています。例えばクマを発見した時に、クマをロックオンすると自動で追尾するそんな機能が付いた高性能なものを導入しました。

○医療介護DXについて

・医療介護DXということで取り組んでいることがあります。独り暮らしの世帯が増えていくという話をしました。独り暮らしの市民の人の病状だとか、今までどんな病気にかかったとか、どんな薬を飲んでいたとか、どんな介護をされていたか、連絡先がどこかという情報を事前に登録しておいて、救急隊が必要なときに必要な情報を取り出して病院に搬送していこうという取組を始めています。

・ただ、人に知られたくないこともありますよね。だから、こういった個人情報をどう管理していくかそんなことを配慮しながら、増えている独り暮らしの方が安全、安心に暮らしていただけるように取組を始めています。

・救急のときだけではなくて、病院から退院して自宅で療養したいという場合でも、ケアマネさんにそういった情報がなかなか伝わらないこともあったりするので、そんな様々な人が持っている情報を事前にしっかりとどこかに蓄えておいて、必要なときに必要な情報を取り出せるようにしていこうと始めています。

・公民館を活用しようということも始めようとしています。例えば、公民館にカメラがあって、そこに顔を出すと先生が病院で見ている、表情を確認してくれたり、脈拍だとか血圧を別の装置で測って病院にその情報が行くことによって、病院に行かなくても公民館でそんなことができるように、どんどんデジタル化を進めていこうとしています。

○デジタル化について

・防災行政無線も多重化していきます。まずは文字で流します。スマートフォンにメールで防災行政無線の内容を文字でお知らせするようにします。それから、固定電話から確認できるようにもします。屋外にもまだ聞き取れないエリアがあるということで、スピーカーを替えていきます。ケーブルテレビやホームページでも流すようにして、いろんな情報を多重化でお伝えするようにしていきます。

・緊急情報だけではなくて、生活に必要な情報、あるいは観光に必要な情報等々もワンクリックかツークリックぐらいで分かるようなページをつくって配信していきます。

・デジタルの技術ばかりに頼っていては、市民の皆様方の安全、安心につながっていかないということで、人を介したケアもしっかりと整えていこうと今やっています。お一人でいろんな悩みを抱えていらっしゃる人が多くなってきています。家族4人がいて、じいちゃんが生活困窮とアルコール依存なんだけど、子どもがひきこもりであったり、病院に行

きたいと言うんだけども医者は嫌いだとか、そういう複合的な悩みを持っている個人だとか世帯が増えてきています。

・実はこういった悩みというのは、市役所の場合は担当がこれは何課、これは何課と全部ばらばらなんです。そうすると、いろんなところをたらい回しになってしまう。市民の皆さんの利便性を考えたときに、ワンストップでそこに行けば全部相談に乗ってもらって、対応もしてもらえようチームをつくって、こういった複合世帯に対してサポートするよな、そんな体制を整えてきています。

・カーボンニュートラルも今やろうとしています。2013年の能美市内の排出していたCO₂を2030年には半分にするという目標で、照明をLEDに、車もガソリン車からEV車に、太陽光発電を取り入れてもらう、そんなことをしながら目指そうとしています。

○今後の取り組みについて

・感染症対策です。今は新型コロナウイルスワクチンを接種してもらうということが一番の防御策なんですけれども、なかなか減っていません。特に小学校や保育園での感染者が多く、最近インフルエンザも拡大していって、ぜひ基本的な感染症対策に皆様方のご協力をいただければと思います。

・企業誘致が好調で来年、2024年までに約1,000人の新しい雇用先が生まれます。その1,000人が能美市内の既存の企業から転職をしてしまったら、効果は半減してしまうことから、大都市圏から人材を持ってこようと、いろんな取組を始めています。能美市内に進出したというお声をいただいています、どうやって応えていくかということから、新たな産業団地、あるいは住む場所、宅地の開発もしていきます。

・感染症の影響から、文化や芸能のイベント、スポーツイベントが少なくなっている。例えば祭り、文化の継承だとか、スポーツ力が落ちている。練習する機会や披露する場所が少ないということもあって、5月に5類になるということが検討されていますけれども、そういったことを機に、文化、芸能とかスポーツ力をさらに高めていくこともやっていきます。

・加賀海浜産業道路で川北のほうに向かう先に、今年の3月に橋ができます。そうすると、小松製作所の粟津工場と金沢港が直結する。能美市内では福島町に新たな産業団地を造って、大きな工場が出来上がってきていますけれども、さらにあの周辺が活性化するという事です。

・加賀立国1200年という言葉はよく聞かれるかもしれませんが、実は能美という自治体名が誕生しても1200年という大変記念すべき年です。この年を記念し、それから1300年、1500年に向かって市民の皆様方との機運を高めるような、そんなイベントや行事を考えています。

・いしかわ百万石文化祭といたしまして、これは県内全域で行われるんですけれども、秋にいろんな文化イベントや芸能イベントが行われます。能美市内でいろんな行事をやるので、ぜひ皆様方も参加や、あるいは出演もしていただければと思います。

・健康ロード。これは能美電の跡地であります。2025年の9月にオープンを目指して、全線で16キロあるんですけれども、きれいに整備して、駅があったところにも全部看板をつけて、次の駅までどれくらいの距離だというようなことが分かるようになったり、周辺にどんな観光地があったりとか、どんな名所があるかというようなことが分かるようにしていきます。

・市民ファースト、現地現場主義ということで、こうやって市民の皆さんといろんな意見交換をさせていただきながら、さらに市政を発展させ、市民の皆様方が誇りに思ってもらえるように、能美市のことが好きになってもらえるように取り組んでいきたいと思っています。

3) 質疑応答

【参加者】 災害対策用のドローンを導入されたと思いますが、私もそのドローンを見たいんですけれども、例えば小中学生の皆さんに、デモンストレーションを行うような予定はありますか。

【市長】 先日、新しい除雪車を能美市内で稼働させるときに、中央小学校の子どもたちに披露しました。そのときにドローンの実演をして、皆さんで上空からの記念撮影をしたりしています。

4) 閉会